

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100096		
法人名	社会福祉法人 揺籃会		
事業所名	グループホーム ゆうあいの郷		
所在地	樺戸郡浦臼町字キナウスナイ188-70		
自己評価作成日	平成26年 7月28日	評価結果市町村受理日	平成26年10月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.jp/kanri/01/index.php?action_kanri_detail_2013_025_kihon=true
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成26年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にしていきます」の基本理念のもと、地域で行われている行事等に積極的に参加し、交流を深めている。また小学校や幼稚園の子供たちと交流する機会を設けている。

・鶴沼公園や道の駅が近くにあり、恵まれた環境を生かし、散歩や交流の場所として活用しています。

・毎年、1年間の日々の様子をDVDにまとめ、家族交流会等で見て頂いている。また入居者の方の誕生日に合わせ個々の様子のDVDを作成したり、入居後、1か月の様子をDVDにまとめ家族の方に渡している。また遠方に住んでいる家族の方には、1か月ごとのケース記録を送り、日々の様子を理解して頂いている。

・隣接する特養、ディサービスの利用者の方との交流や合同の行事等があり、知人との交流を図っている。

・職員の経験年数や職種に応じて内部研修を実施し人材育成に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな環境の中にあり、平成17年に開設し9年目を迎えている。地域の中に溶け込んで根付くことや、職員教育にも力を入れている。1ユニットの家庭的な雰囲気の中で、利用者は活き活きと暮らし、事業所に入ると日常の取り組みを利用者の表情から感じ取る事が出来る。リビング内には多くの手芸作品や展示物が飾られ、生活の豊かさを表している。地域との関わりは特に注目する部分であり、利用者が地域住民として自然体で生活出来るように、様々な交流の場を設けている。ボランティアの訪問でクラブ活動(ちぎり絵・手芸・カラオケ・習字・ペン字)があり、利用者の選択により参加している。小学校の運動会、幼稚園のお遊戯会に招待され、ゆっくり鑑賞できるように場所も確保されている。事業所には近所の方が気軽に訪れたり、パンやコンビニエンスストアの移動販売も行われたりして利用者の楽しみの一つになっている。また保健センターで開催される「よってけサロン」には直接出かけ、知人と交流し楽しい時間を過ごしている。職員同士は日頃からコミュニケーションがとれており、利用者の笑顔が沢山見られるように意欲を持って接している。利用開始時の説明で最大限のケアが提示されているが、その後の暮らし方も充分に話し合う事で、利用者・家族が安心して暮らせるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ネームプレートの裏に理念が印字されている。また玄関、事務所等職員が普段使用する場所に掲示し、常に確認でき自覚を持つことが出来る。理念に基づいたケアの実践に努めている。	理念は事業所内の要所に掲示し、職員の木製ネームプレートに記載されいつも身につけている事で、意義を確認している。職員は、地域の方の訪問を受けたり、地域に向いた際には積極的に関わりを持ったりして、会話を楽しむ場面が多くあり、理念の内容である地域と共に生活している事を実感している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なっている行事や小学校、幼稚園、社協等の行事に参加したり、地域の方が遊びに来てくださったり、ボランティアが来園してくださり交流を図っている。緑日には社協、民生委員の方が手伝いに来園されている。昨年は幼稚園に訪問し手作りの七夕飾りを送っている。	小学校の運動会、幼稚園のお遊戯会、地域の祭り、特別養護老人ホームで開催される縁日等、多くの行事に参加し地域との交流を図っている。ボランティアの方の訪問でクラブ活動を行ったり、保健センターで行われる「よってけサロン」には直接出かけ地域住民と交流している。事業所内の生活だけでなく、出向く事で意欲の向上や社会交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の地域ケア会議に出席し意見交換を行なっている。また認知症のDVDを活用し家族会などで認知症についての理解や支援方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し、日々の状態や活動内容、苦情相談等の報告を定例としている。活動についての内容は写真を添付し見て頂いている。会議で出された意見を聞きサービスの向上に努めている。	地域住民、民生委員、行政職員、家族代表、理事、職員が参加し、運営推進会議を継続的に開催している。事業所の活動報告や現状、参加者からの報告、その他意見交換が行われ、そこでの意見が事業所のサービスの質の向上に活かされている。運営推進会議では写真やDVDを使用し、取り組み内容を判り易くする工夫している。	運営推進会議開催後の報告は「やすらぎ」通信の会議案内と事業所内に会議録の掲示をしているが、見てもらえる機会が少ない。会議録の直接送付により、情報の共有と会議について理解が深められ、家族からの意見の提供や、議題提起に繋がるように期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議、認定調査等で入居者の状態について話をしたり、事業所の実情やケアの取り組みについて相談をしたりと協力関係を築いている。	行政の窓口には直接訪問し、手続きや相談をしている。電話で問い合わせたり、福祉課職員が運営推進会議に出席する事で情報交換もしている。町の依頼により行政から事業所の見学対応もあり、常に協力関係を築いている。地域ケア会議に出席し、他機関や保健師、民生委員と情報交換もしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、委員会を中心に身体拘束を行わないケアについて話し合ったり、研修に参加し研修で学んだ事や会議でミーティング等で職員に伝え、拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束や行動を制限しないと条文に定め、行っていない。センサーマット使用については、利用者の身体状況から家族と話し合い、安全な排泄が出来るように対応している。身体拘束委員会の設置により定期的に研修し、外部研修に参加した時は、伝達研修で他職員と確認している。毎日ミーティング時に「倫理綱領」を復唱する事で、ケアの心得も確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、研修で学んだ事をミーティングや会議で伝え話し合いを行なっている。また虐待の新聞の記事を元にその都度話し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	老人福祉施設協議会で発行している倫理綱領を毎日のミーティング時に復読し、内容について理解を深めている。また、職員会議でも話があり、学ぶ機会を持ち活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を用いながら説明を行なっている。料金の部分については料金表を用いながら詳しく説明を行なっている。家族、入居者に不安な事や疑問な点を尋ね、説明を行ない理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、入居者懇談会を開き意見交換を行なっている。また年に1回、入居者アンケート・家族アンケート調査を実施し意見を聞いたり、来園時に要望や意見を聞き運営に反映させている。また運営推進会議でアンケートの結果を報告している。	月に1度の家族訪問があり、職員は来訪時に日常の様子や健康状態を詳しく報告している。面会時に家族が話した内容を記録し、要望があれば直ぐに対処している。毎年、利用者・家族アンケートを行い、日頃気付かない思いを汲み取っている。家族交流会では、家族同士が話せる場面も多く作られている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	担当役員、管理者はケア会議や毎日のミーティングで意見を聞いてくれる機会がある。また年2回の人事考課時に面接を通し、意見や提案を聞く機会を設けてある。	毎月開催のケア会議や毎日のミーティングでは、管理者と職員が充分に話し合う場面がある。人事考課の仕組みもあり、各自が自己採点する事で主任が評価している。法人施設長の訪問も頻回にあり、気軽に話をしたり、職員や利用者と一緒にイベントを楽しんだり、食事をしたりする事もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、個々の目標を設定し向上心を持って働ける様にアドバイスや意見を交換している。また日常の業務の中での悩みや意見を相談できる機会もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの講師を招き、経験年数や経験に合わせての内部研修を行なっている。また外部への研修にも参加し学べる機会をつくり、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの研修の機会や見学を通しての交流を行なっている。他の施設の良い点を取り入れる等サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行なったり、隣接されているディサービス、ショートステイを利用されている方が入居を希望されている際には、利用時に尋ねていき、困っている事、不安な事、要望等を聞き、安心して過ごして頂ける様な環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時や来園時に家族の困っている事、不安な事、要望を聞きそれに合った対応を行なっている。また入居1か月の様子をDVDにし、家族の方に此处での生活の様子を見て頂き、安心館をもらう様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、ケアマネと話をし、本人の状態、ニーズを把握した上で何を必要としているのか、優先順位を考え見極めを行ない支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事、興味のある事を生活歴より把握し、包丁研ぎ、習字、お菓子づくり等を一緒に行なったり教えてもらう等、生活を共に過ごす者同士としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時には、外出や散歩等を行なったり、居室にてゆっくりと過ごして頂いている。年に2回の家族交流会や縁日、餅つきなどに参加して頂き、一緒に過ごす機会を作っている。また誕生日には、DVDを作成し家族の方に日常生活の様子を観ていただいたり、来園時には日々の様子を話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に出掛け知人との交流を楽しんだり、町内のドライブでは自宅を見たり馴染みの場所を回ったりしている。また知人の方が気軽にきていただける、雰囲気を作っている。また、理容院や病院など馴染みの所に通われたり、ディサービスや特養の利用者さんとも交流が図れる様に努めている。	入居前は法人の運営するディサービスを利用していた方が多く、隣接している事で見慣れた風景の中で生活が続けられている。理美容院や特別養護老人ホーム、地域との交流でも見慣れた知人が多く、不安を感じさせない環境となっている。入居後の生活も利用者が培った技能や能力を最大限に発揮し、今までの生活と変わらない事を感じさせてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が町内の方で、お寺や地域が同じ等で知っている方が多く、昔の話等で会話が弾まれている。入居者同士が声を掛け合ったり、体調を気遣ったりと思いやりを持った生活を送り、孤立をしないように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、隣接する特養へ入所した方が多い為、お互いに交流を図っている。家族の方とも合同の行事等で接点を持っている。他の所へ移動された方は家族の方が近況報告などに来園されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話から、本人の思いや希望、意向を聞きプランに取り入れている。困難な場合も出来るだけ寄り添える様に努めている。	センター方式の活用で、家族の思いや利用者の考え方、利用者の出来る事出来ない事、職員が捉える「私の姿と気持ちシート」から細かい状況の把握に努めている。アセスメントなどは定期的に行い、見直し時期には家族を交え検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族から生活歴や暮らし方を聞き、情報を得ている。アセスメントし一人ひとりの役割、趣味など十分に楽しみ自分らしく生活が送って頂けるように、介護計画を立案している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子をケース記録に記入したり、ミーティング等で状態について話したりと現状の状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に日々の状態を伝え、本人、家族の要望を基にケアカンファレンスにてその人の検討課題を提議し話し合いを行ない、現状に即した介護計画を作成している。通常は3ヶ月で見直しを行なっている。	職員は個別に「生活(暮らし)シート」を使用し、毎日ケアプランの短期目標に沿い、利用者の状況を記入している。項目の進捗状況に合わせケアマネジャーは、継続や見直し、終了の評価に繋げている。その他に特記すべき内容も記載し、後のカンファレンスや見直しの再目標作成に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、個々の短期目標、サービス内容が記してある。職員それぞれの視点で、毎日の記録に残し情報を共有している。また、記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する特養やディサービスの利用者と行事を共に行なったり、交流会を行なっている。また週2回の移動販売や年2回の衣料品販売等の利用をする等、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協の行事や介護予防教室に参加し、一人ひとりの力が発揮できるように支援している。またボランティア来園にて、巻き寿司作りや折り紙、カラオケ、体操等を行ない楽しみながら心身機能の向上が図れる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医が2週間に1回往診の為に来園。また家族の希望で在宅時からのかかりつけ医へ受診され方も数人おり、適切な医療を受けられる様に支援している。	利用者・家族の要望を大切に、入居前のかかりつけ医を継続している。基本は家族の受診同行としているが、要望があれば事業所の職員で対応している。協力医による月1回の回診もあり、安心して適切な医療を受けられるように支援している。家族が受診同行した時の報告、職員が受診同行した時の家族への報告も適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタル測定を行ない日々の状態把握を行い、状態変化時には隣接する特養看護師に連絡し診てもらったり、主治医に相談する等適切な受診が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、入院先に出向き地域連携室の職員との情報交換や相談を行なっている。またご家族の方と連携をとり、早期退院が出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し、家族には契約時や来園時に終末期ケアについて、医療面での限界をふまえた上で事業所の出来る事、出来ない事を説明している。希望する方には特養の待機者としての申し込みの話をしている。	利用開始時に、事業所で出来る最大限のケアについて「重度化した場合における対応の指針」で説明している。緊急入院後再入居が困難な場合には、主治医・利用者・家族を交え、十分に話し合う事でその後の対応を提案している。利用者の殆どは特別養護老人ホームの待機者であり、希望に添える対応に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、全職員が普通救命講習を受講し、急変時に速やかに対応できる知識を身につけている。緊急時のマニュアルを設備しており、マニュアルを元にケア会議等でシミュレーションし実践を交え学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防災訓練を実施している。地域の方や消防団員、消防署員の方も訓練に参加して頂き、協力体制を築いている。また、防火実務研修に参加し、研修に参加していない職員に避難の方法を実践を通し伝えている。	年2回消防署の協力で避難訓練のほかには災害訓練も行っている。隣接の特別養護老人ホームの訓練同日に事業所独自の避難訓練をしている。特別養護老人ホームと協働しながら、避難場所確保や食料や水の備蓄、緊急時の対応を検討している。地域とは災害時協定を交わし、相互協力体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修を行なうと共に、一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけない様な関わりを行なっている。声掛けの仕方や排泄時の対応など、プライバシーや羞恥心に配慮している。	職員の言葉遣いには十分に配慮し、人格を損ねる事のないよう対応している。「プライバシーについての配慮」の心得を作成し、研修や振り返りを行う事で確認している。職員同士がお互いの言葉遣いについて注意し合える関係も出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通し、本人の思いや希望を聞いたり、行動の中から察知したりと自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切にし、希望を取り入れた生活が送れる様に支援している。月に1回、住職がお参りに来られる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装にこだわりを持ち、美容室に出掛けパーマや髪染等を行なう等、その人らしい身だしなみが出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の食べたい物や好みの物を聞きメニューに取り入れたり、季節ごとに昔からの食していた物を取り入れたりしている。テーブル拭きやお膳拭き、野菜切り、盛り付け、片付け等、個々の力量に添って行なえる事を見極め、職員と一緒にこなえる様に支援している。	職員と利用者が一緒に台所で調理する食事が提供され、食事中は会話が弾み楽しみの時間となっている。外食や弁当の取り寄せ、イベント食、バイキング等もあり、楽しい食事になるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量や栄養面のバランスを考えた食事摂取が行なえる様にしている。また主治医からの指示によってカロリーに注意した食事摂取を行なっている。また水分もこまめに提供し飲用して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1回、歯科医による口腔ケアを実施し、毎食後の歯磨き等指示を元に一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員がトイレでの排泄を行っており、状態を見てトイレへの声掛け、誘導を行ない失禁などを出来るだけ減らせる様に支援している。	利用者の殆どが自立排泄しており、職員は注意深く見守っている。失敗を恐れる利用者はパットや紙パンツを使用しているが、殆ど問題なく排泄されている。夜間の対応では、センサーによる訪室対応や、居室内のポータブル使用もあり、安全に排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に便秘の不安がある方には、飲み物にオリゴ糖を使用したり、運動を行なったりと個々に応じた対応を行ない、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はひとりひとりの都合を確認し、無理のないようゆっくりと入浴して頂いている。また入浴を拒まれる方には、時間を開け声掛けをしたり、後日声を掛ける等している。	毎日入浴の用意があり、利用者の要望に合わせて対応している。身体状況や天候に合わせたシャワー浴・清拭も行っている。入浴剤を使用する事で心地良さを感じてもらったり、休日には隣接する法人のデイサービスの大きなお風呂を借りて、温泉気分を味わってもらえる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファで休息したり居家で休んだりリラックスして過ごして頂くなど、個々の生活リズムを把握し、それに合わせた支援を行なっている。夜間は状態の確認を行なう等、安心して休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの疾病、服薬内容、薬情等をファイルに綴じてあり、職員全員が確認し把握できるようにしている。服薬の変更時にはミーティングや連絡ノートを用いて周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴をもとに、その方の楽しみや出来る力を理解し、包丁研ぎ、食事仕度、掃除等の役割を持って頂いたり、個々の趣味(手芸、習字、畑仕事等)や今までの生活習慣を継続し、張り合いや喜びを感じて頂ける様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間を除き、外出の機会を多く設けており、入居者の希望を聞き、園の周りや近くの公園まで散歩をしたり、町内外へのドライブやイベントに参加したりと、季節行事を楽しめるように支援している。また家族の方と一緒に買物や自宅へ出掛けている。本人の希望に添って外出支援を行なっている。	年間行事予定を作成し、全員が参加して外出支援が行われている。白鳥見学、花見、地域の祭りや法人主催のイベント、小学校の運動会や幼稚園のお遊戯会等にも招待され、見学するスペースも用意されている。また、利用者の希望やその日の天候・気分に合わせて外出やドライブにも出かけ、季節を肌で感じられるような機会を多く作っている。また、保健センター開催の「よってけサロン」に利用者が出向き、地域の方と交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏は直売所へ行き買い物をしたり、週2回の移動販売で希望の物を選んだりと目的に合った買い物が行なえる様に支援している。また毎月の仏花やお布施、嗜好するお酒を買ったりと本人の希望に添った支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方がおり、自ら家族や知人と連絡が取れる様にしている。使い方で迷う時には、介助を行なう事もある。また、お孫さんや知人の方に手紙を出されたりとやり取りが出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、明るく開放的は空間作りを心掛け、廊下、居間などは歩行の妨げにならない様に配慮をしている。花や鉢物を置いたり、入居者さんと作成した季節の飾り物を飾ったり、日常の様子の写真を掲示し生活感、季節感を取り入れた環境作りに努めている。	利用者が日中の殆どを過ごしているリビングには、クラブ活動で作られた作品があちらこちらに展示され、利用者の充実した生活が感じ取れる。大きなテレビの前にテーブルを囲み全員が座れるソファが配置され、朝の体操から始まり、横になったり、雑談したり、ゲームを楽しんだりする姿が活き活きとしている。清掃や気になる匂い、温度、湿度に配慮し、快適に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたり居間ソファで気の合った方と過ごしたり、玄関の椅子や廊下の椅子に腰かけたりと思い思いに過ごせる様な工夫をしている。また夏にはベランダに出て気が合う方と話をしながら外気浴を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや仏壇等入居前に使用していた馴染みの家具や好みの物を置いたりしている。また家族との写真を飾って頂くなど、安心して居心地良く過ごせる様に支援している。	居室は収納部分も多く、その人らしさが感じられる部屋となっている。テレビや仏壇の持ち込みもあり、家族や孫の写真が心を和ませている。家族が来てもらうと過ごせるように、椅子やソファの配置、安全な歩行が保てるように要所に手すりの設置もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札やのれん、トイレにはプレートを付け迷わず目的の場所へ行ける様にしたり、廊下やトイレに手すりを設置し安全に歩ける様にしたりと自立した生活が送れる様にしている。		